

もぎたてテレビ 1000回と愛媛



この「舞たうん」111号が発刊される頃、南海放送制作の『もぎたてテレビ』（以下、『もぎたて』）は記念すべき放送1000回を迎えます。（1月15日放送分）

1991年4月にスタートした『もぎたて』は現在21年目の初春を迎えたところ。実はローカルのテレビ番組が放送1000回を迎えることができるのは全国的にも極めて珍しいことで、これも毎週日曜日を楽しみに番組を御覧頂いている愛媛の視聴者、そして番組に共感して頂いている提供スポンサーの御支援あつてのことと深く感謝致しております。

私は、この『もぎたて』スタート



から今に至るまで、「もぎたてと愛媛」という視点で、諸先輩や同僚たちと番組作りに関わってきた一人です。『もぎたて』の首尾一貫変わらぬ番組コンセプトは「愛媛のいいとこ探し」。つまり、愛媛の足りない所・短所を見るのではなく、長所〓いい所を愛媛の人こそ知ってもらおう番組にしよう！ということなのです。

では、その「愛媛のいいとこ探し」のコンセプトを具体化し面白い番組とする為にはどうすればいいのか？ここに私が考える『もぎたて』の財産があるのです。21年・1000回を数えた今も、しっかりと受け継がれている、財産を2つほど挙げてみます。

まず1つ。それは

毎回の取材テーマを「エリア」地域」でまとめたことです。市・町・村といった行政単位は勿論のこと、〇〇商店街の旅、〇〇川沿い探検：など、愛媛を番組独自で縦横無尽にエリア設定をしたことです。今から20年前、テレビの取材と言えば概ね、気になるポイント〓「点」のみの取材が普通でした。（例えば〇市の施設や〇町のお店等）つまり視聴者が知る事が出来るのは「1点」だけ。これでは本来の意味で「地域」エリア」を感じるはずがありません。少し発想を変え「点」から「面」に広げてみると、気になることが一杯



南海放送
テレビ局長
大西 康司

です：取材ポイントのお隣の家にいい笑顔のおばあちゃんがいる！その家の前にある古いお地蔵様の謂われは？そこに立つ大きなイチヨウの木は樹齢は？…と、どんどん関心が繋がっていきます。そしてそういった「面」の取材が結果的に「本当の地域の匂い」を描くことになるのです。

そしてもう一つ、『もぎたて』と言えば皆さん思い浮かぶのが「食べ物」でしょう。その描き方も独特です。例えば、古くから近所にある小さな和菓子屋さん。美味しいことは子供の頃から知っていても、何故美味しいのか、その理由は聞いたことが無い…。そう、近所さんでさえ知っていないそうではないことが一杯です。そこで『もぎたて』は、そのお店の厨房にカメラを入れさせてもらうことを提案しました。どんな場所、どんな道具で、どんな技で、あの味が生まれるのか：そんな舞台裏をしつかり描いて



「もぎたて現象」と言われる賑わいが出現。番組の認知度や人気も増してきました。同時に、地域の知る人ぞ知る美味しい物を屋台形式で編成する「もぎたて名店街」、有名メーカーと組ませて頂いた「もぎたてラーメン」「もぎたて弁当」「もぎたてカレー」などオリジナル商品の制作、さらには取材した膨大な情報を整理した「もぎたてマガジン」発刊など「もぎたて」と多くの企業のコラボ商品を開発し、愛媛の視聴者の皆様に楽しんで頂いてきました。こうして番組開始から21年、1000回。今も、番組の視聴率は13〜15%の支持を頂いています。2012年7月からはハワイの方々にも現地CAT

こそ、視聴者にも「本当の美味しさ」が納得感を持つて伝わるからです。ですから『もぎたて』は、表面的に食べ物紹介をする「グルメ番組」ではなく、人間味を加えた「グルメドキュメンタリー」、或いは地域に伝わるユニークな伝統食も含めた「グルメエンターテインメント」を目指して来ました。「え、あのお店のあの料理に、こんな誕生ドラマが!」「地元に住んでいる私が知らなかった!」そんな驚きの声を多く頂くに連れ、登場頂いたお店には



Vを通じ、レギュラー放送を楽しんで頂けることになるなど、番組の可能性はまだまだ発展途上です。

例えば、あの東日本大震災以降、私達は「本当の幸せは何か?」「故郷で生きるとは?」と様々な問い掛けを繰り返しています。こうしたことに思いをはせる時、私はふと：『もぎたて』は「愛媛のいいところ探し」を通じ、愛媛の人達と共にその「答え」を探し続けて来たのかもしれない…と考えるようになりました。様々な経済指標や他者との比較、物質的な豊かさだけでは「本当の幸せ」につながらないことは、今回の不幸な震災で誰もが痛感した事実です。愛媛を愛し、愛媛を知り、愛媛を楽しむこと、そしてそのことに「喜び」を感じることこそが、愛媛に暮らす私達の幸せに結びつくはずで

す。ささやかながら、そのお手伝いが出来る番組が『もぎたて』だと考えています。

全国でも異例の長寿番組とはいえ、『もぎたて』は人間でいえばまだ20歳。まさに青春真っ盛りです。視聴者の皆さんの声を栄養に、これからどんな番組に成長し、どんな愛媛の姿を伝える事が出来るのか?

『もぎたてテレビ』は「1000回」という駅を今、出発したところ。そして「愛媛のいいところ探し」というレールの上をまだまだ走り続けます。